

道博協ニュース 第126号 (2020年3月18日発行)

2019年度ミュージアムマネジメント研修会

～「ICOM 京都大会 2019 ポストカンファレンス in 北海道」シンポジウム～

2019年度の本協会ミュージアムマネジメント研修会（日本ミュージアムマネジメント学会共催）は、同年9月9日（月）に伊達市で開催した「ICOM 京都大会 2019 ポストカンファレンス in 北海道」シンポジウムと翌10日（火）に実施した「だて歴史文化ミュージアム」見学会で構成した。

1. ICOM 京都大会 2019 ポストカンファレンス in 北海道

9月1日から7日までの1週間の会期で開催した「ICOM 京都大会」（会場：京都国際会館）には、118の国・地域から過去最多となる約4200人が参加したというから驚きだ。私を含めて本協会会員も参加された方は少ないと思うが、圧倒的に海外からの参加者が多いことは一目瞭然だった。メイン会場の収容人数は3000人であったから、開会式や基調講演などは到底全員を収容しきれず、サブ会場を用意してその模様を中継するほどだった。大会参加者はネームプレートをなぜか会場外や移動時にも携帯していたため、京都市内の地下鉄やバスに乗り合わせたり、宿泊先のホテルでは大会参加者だとすぐ認識し、その多さにも驚くほどだった。

その勢いを国内数か所に導いて開催されたのが「ポストカンファレンス」で、伊達市はその一つ。京都大会では海外参加者のアイヌに対する関心は殊の外高く、北海道会場でも地元住民の参加者を除けば海外の参加者が圧倒的に多かったこともうなづける。

当日のプログラムをご覧いただければわかるが、このボリュームを半日の時間でこなすのは厳しかった。国内登壇者でアイヌの話題を取り上げた佐々木利和氏の講演、坂本昇氏、石川直章氏の地方色豊かな報告は大変興味深い話題を提供していただいたが、あまりにも

時間が短すぎた。京都大会では「ゆったり」したプログラムを十分に味わったのだが…。



ICOM2019 伊達シンポジウムチラシ

2. だて歴史文化ミュージアム

宿泊地の室蘭で、当地名物豚肉の「焼き鳥」に舌鼓を打った翌日、ポストカンファレンスのホスト、伊達市が2019年4月に旧開拓記念館をリニューアルオープンさせた「だて歴史文化ミュージアム」を、同館の伊達学芸員に展示室のほかバックヤードまで隅々を案内していただいた。

伊達氏は伊達市民が参画して創りあげた博物館を強調しておられたが、それはオープン後の活用のされ方までに及んでいる。市民協働型の博物館運営を目の当たりにし、地域社会を構成する一つであり、人々の拠り所となす博物館の在り方を学びなおす機会となった。



だて歴史文化ミュージアム

3. 今後に向けて

他府県の学芸員からは、「北海道はすごく広く地域間の移動にも時間がかかるのに、道内学芸員の結束力を強く感じる」とよく言われる。

それは、本協会が博物館大会、各地区連絡協議会、ミュージアムマネジメント研修会、そして学芸職員部会等を通してリアルタイムな話題から専門分野に至るまで、会員相互の研鑽と親睦を図る場を定期的かつ積極的に提供しているからだ。会員皆さまの先駆的、未来的な思考のもとで、博物館の存在意義をこれまで以上に高めていただければ幸いである。

(理事 中島宏一)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」

2月12日に北海道博物館で研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」が開催されました。私が知り得る限りでは、北海道で視覚障害者対応に関する研修会がミュージアムで行われたのは、今回が初めてです。

当日は、鳥山由子元筑波大学教授、北海道札幌視覚支援学校の千明和記教諭、鳥羽晶幸教諭の3名の講師から、視覚障害者を迎える際に気をつける点や、歩行に関する介助の方法を実践的に学びました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催等を背景に、ミュージアムが多様な人を受け入れる一環として日本全国の様々なミュージアムで視覚障害者向けのプログラムが実施されていますが、特に確立されたメソッドはなく、熟練した学芸員や教育普及担当の経験や積極的な視覚障害者の存在が活動の充実を左右しているというのが現状です。

今回の研修会を機に、基軸となる知識が行き渡り、ミュージアムに出向いた視覚障害者が「楽しくなかった」と感じる経験が減ることは、大きな意味があると考えます。

私は美術館の視覚障害者対応をテーマに研究していますが、小樽美術館では視覚障害者



研修会の様子

向けの特別仕様のプログラムは用意していません。

もちろん、視覚障害に対する基本的な知識は必要ですが、見えない人を特別視することなく受け入れる姿勢が、1番重要だと思っているからです。

これは「人が5割、理解ある人がいれば私たちはどこにでも向かいます」という鳥山由子元教授の言葉にもリンクすると思います。

一口に視覚障害者と言っても、なんらかの残存視力がある方が殆どで、点字が読める人は1割程度であり、見え方も十人十色です。私は主に中途失明の視覚障害者と美術鑑賞する活動に取り組んでいるため、先天盲が多い視覚障害教育分野のお話をたっぷり聴けて、すごく充実した時間を過ごすことができました。

(市立小樽美術館学芸員 山田菜月)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

デジタル歴史館というコンテンツ

昨年、一昨年の12月に、北海道埋蔵文化財センター主催の「埋蔵文化財担当者研修会」に参加させていただいた。研修内容は3D計測の基本と実例で、遺構や遺物の写真データから3D図化を行うというものだった。そこで判ったことは、最近の技術進歩の著しさと情報化社会における自身のスペックの低さである。どのような理論で平面的な画像から立体を生み出しているのか皆目見当もつかなかったが、実際に撮影した画像が立体として生まれ変わり、マウスで回転できる様を見てこれは面白いと思った。さっそく当館でもソフトを導入し収蔵資料を3D化し、当館Webページに「デジタル歴史館」というコンテンツを追加し公開している。

撮影を含め、もっぱら職員3名で試行錯誤しながら3D化しているのだが、まずは土器の撮影から取りかかった。文様を360度回転して見られるメリットに期待したのだ。

その後、あれこれ試してみたが、素材としては、陶磁器やガラス製品のような光を透過する資料は不向きで、木彫り熊といったやや丸みを帯び色調が単調な木彫類が割合作業し易いことがわかった。

また、Web上へのアップにおいては、できるだけ多くの方にストレス無く見てもらうことを考え、10MB位のデータ量でPDF化



資料は、地道に手動回転で撮影している

した。一方で同資料でも展示解説用にデータ量の大きい緻密なものも並行して作っている。汎用してみてデジタルにおける3D化は、博物館にとって、これからさらに需要が高まる分野なのだろうと感じた。

さて、いくつかの資料を3D化することに成功したものの、相も変わらず私のスペックは向上しない。しかしWeb上では、町内出土土器4点、土偶、らんびき（蒸留器）、木彫り熊、フクロウの剥製が見られるようになっている。今後も少しずつではあるが資料を追加していく予定なので、興味のある方はご覧いただければと思う。

web ページアドレス

<http://www2.town.nanae.hokkaido.jp/rekiskan/>

(七飯町歴史館 山田 央)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

“復旧”と“資料整理”と “これから”

平成30年9月に発生した胆振東部地震で、震度6強を観測した安平町は甚大な被害を受けました。文化財においても町指定文化財だった石倉2棟が倒壊し、郷土資料館では展示品及び収蔵資料、土器類などが床に散乱、割れるなどの被害が出ました。

安平町には旧早来、追分町時代を含めて学芸員がいなかったため、郷土資料はあるもの

の、資料の保存がちゃんとなされていない、台帳が作られていないなど沢山の問題が累積していました。それに加えて、今回の震災により耐震対策がなされていなかった資料の破損、行方不明の資料の存在などまた新たな問題も明らかになりました。

こうした状況下で、まず資料自体の状態や展示空間の状態を改善することを最優先に作業していくことで今動き始めています。「資料」や「空間」がいい環境であることが、文化財を守るベースになるのだと思っております。ただ、博物館・文化財施設は、文化財、郷土資料の保管場所というわけではなく、資料をちゃんと保全していく一方で、学芸員や専門

家の調査を通じて、個々の資料が持っているその地域にとっての意味や意義、価値などを引き出して、展示や体験など、色々な方法で活用していくことが博物館・文化財施設の役割だと思っています。

これからの目標として、震災で被災した資料の処置や今までなされていなかった資料整理だけでなく、郷土資料館というものを多くの方に知ってもらおうべく、様々な普及・啓発活動を行い、地域の方々が集い語らうことができる場を目指して、人と人を繋ぐ、「懸け橋」のような存在になれるよう一歩ずつ前進して

いきたいと思っています。まだまだこれから先長いですが、日々挑戦していく気構えで、力を注いでいきたいと思っています。

最後に、当町郷土資料館の復旧作業におかれましては、北海道博物館協会、学芸職員部会の皆様及び日胆地区博物館等連絡協議会の皆様のご指導、ご支援のおかげで復旧することができました。ご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

(安平町教育委員会 鍋嶋貴之)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

「古産業から地域文化へ」

薄荷油からアロマオイルへ

「薄荷の中川か、中川の薄荷か」(北海タイムス;大正11年12月10日)といわれるほど、大正から昭和初期にかけて、中川では薄荷蒸溜産業が盛んでした。薄荷油は運搬が楽であることや高値で取り引きされたことから、交通不便であった町南部を中心に薄荷が栽培されていました。

中川町エコミュージアムセンターでは、「古産業から地域文化へ」をテーマに敷地内で栽培する和種薄荷「綾波」を、平成16年から佐久老人クラブを中心とした高齢者の方々と中学生で蒸留しています。かつて薄荷農家であった方が保管していた蒸留機を修繕し、地域の方々の手づくりで薄荷蒸溜体験施設「安平志

内薄荷蒸溜館」を建築しました。毎年、約3リットルの薄荷油が抽出され、ドリップ瓶で



写真1; 安平志内薄荷蒸溜館での蒸留の様子

の販売のほか、「なかがわアヤナミサイダー」の原料としても利用されています。

現在、地域おこし協力隊の北野萌さんが、エコミュージアムセンターでトドマツ・ラベンダー等の蒸留作業に取り組んでいます。トドマツ精油をベースに2～3種の精油をブレンドしたルームスプレーを開発中です。

昭和49年を最後に中川町から姿を消した薄荷蒸溜でしたが、博物館活動の中で30年ぶりに再現され、そして今、北野さんの新たな視点での“蒸留”が萌芽を始めています。



写真2; ドドマツの精油を抽出中の北野萌さん

(中川町エコミュージアムセンター 疋田吉識)

網走管内博物館連絡協議会 NEWS

網走管内博物館連絡協議会研修会

モヨロ文化市民講座

「モヨロ貝塚と大陸文化」を開催

令和元年10月20日(日)、網走管内博物館連絡協議会研修会を網走市で開催しました。本研修会は網走市主催の「モヨロ文化市民講座」との共催で、また今年度は日本考古学協会設立70周年記念事業としても開催されたものです。

開催にあたっては、「モヨロ貝塚と大陸文化」をテーマに、網走市立郷土博物館・米村館長と、札幌学院大学教授・臼杵勲氏にご講演をいただき、聴講は市内外より130名ほどの来場となりました。



日本考古学協会会長・谷川章雄氏(左)と
札幌学院大学教授・臼杵勲氏(右)

米村館長からは、「西の登呂に東のモヨロ」と言われた戦後初の学術発掘がモヨロ貝塚で行われた意義、道内における郷土研究部の発

足と後の北海道考古学に果たした役割などが紹介されました。

こうした戦後の学術調査の成果に加え、近年の再調査等によりモヨロ貝塚の北方的な要素が明らかにされてきましたが、臼杵教授からはサハリンや大陸における最新の調査研究に基づくオホーツク文化と大陸文化との関わりについて紹介がなされました。オホーツク式土器と大陸の靺鞨系土器群との類似性や、鉄器・青銅製品等の大陸系遺物の出土状況、一方後期にみられる土器の変化、本州系遺物の増加など、オホーツク文化の変容もまた、背景にあった激動する東アジア情勢に影響を受けていたことが示されました。

また会場では「モヨロ貝塚をさぐる歩み」としてロビー展も開催され、多くの来場者があらためて郷土の貴重な文化に関心を深めていました。



モヨロ文化市民講座会場
(網走市エコセンター2000)

(網走市立郷土博物館 梅田広大)

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

大地が語る十勝の自然史「十勝平野の化石林」を開催しました

令和1年12月21日、帯広百年記念館では博物館講座を行いました(十勝の自然史研究会共催)。当館では「大地が語る十勝の自然史」をテーマにした講演会を毎年12月の第3土曜日に開催しています。本年は上士幌町のひがし大雪自然館学芸員、乙幡康之氏を講師にお招きして、平成28年度8月北海道豪雨の河川

増水で見つかった「十勝平野の化石林」について講演いただきました。

化石林とは地質時代の樹の幹が地層に根を張った状態で見いだされたものです。したがって、もともとその場所に生育していた証拠(現地性)がはっきりしているのが特徴で、当時の古環境や植生を考えるのに良い資料になります。

十勝平野ではこれまで化石林は知られていませんでしたが、台風の影響で長流枝内層(約130万年前)と洪山層(約80万年前前後)の連続する2つの地層から化石林が発見されました。長流枝内層は海成層が広く発達する地

層ですが、北十勝ではミツガシワなどが生育する湿地環境が広がっていました。亜炭層からトウヒ属・カラマツ属の樹木が多く確認され、寒冷な気候環境下に成立した針葉樹と推定されました。一方、洪山層はかつて存在した広大な湿地を示す地層で、下位の亜炭層ではカバノキ属・アスナロ属の樹木が多く、上位に行くにつれてトウヒ属・モミ属、そしてトウヒ属・カラマツ属と変化していくことから、やや温暖な気候から寒冷な気候へと変化していったことが明らかになりました。

師走の忙しい時期でしたが、市内外から143名の方が来場し、十勝の化石林について興味深く耳を傾けていました。



講演会の様子

(帯広百年記念館 森 久大)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

「昭和のゾウ」の生涯

動物園水族館は「いのちの博物館」として多くの生き物を飼育展示しています。多くの動物に携わることは、そこに、同じだけの「いのち」を預かっています。また、「いのち」を繋いでいくことは動物園水族館が環境を整備し繁殖を試み、絶えさせないことが果たす役割のひとつとなっています。当園では1961年にインドで生まれた、インドゾウの「ナナ」を1964年に導入し飼育を開始しました。その当時はワシントン条約の制約もなく、自由に輸入することができる時代でした。当時の動物園は三種の神器として「ゾウ」「キリン」「ライオン」をメインに飼育動物の充実を図る動物園が多くあり、どこの動物園にもゾウが飼育されるようになりました。ゾウのオスはマストと呼ばれる発情期があり、その時期にはオスゾウの性格を、さまざま面において変えてしまい、爆発的な攻撃で飼育員を危険に晒します。オスの飼育を控え、管理しやすいメスを多く輸入し繁殖が皆無な状況でも、「ゾウのいる動物園」というステータスを保っていました。ナナは今年の3月4日に59才で生涯を終えました。ゾウは、全国で100頭以上飼育されていますが2番目の高齢であり、メスでは最高齢でした。本来、ゾウはメスだけの

母系家族でくらすことが習性になっています。ナナは帯広の寒冷地で3才から1頭で飼育するようになり、今日の動物福祉といったテーマには、そぐわない手法であったと思われる。ナナの死亡により当園でのゾウの飼育を終え改めて生涯を振り返ると、命を護ることについては59才、56年間の飼育歴からすると及第点かもしれませんが、命を繋ぐという面では、役割を果たすことができず残念に思われます。今後は、さらに動物たちを理解し、いきいきと暮らしている姿をみせることが訪れる来園者に「いのちの博物館」を感じてもらうことに繋がるとことと思われます。



雪と戯れるナナ

(おびひろ動物園 柚原和敏)

学芸職員部会 NEWS

ひみつ道具で

博物館のウラを暴け!?

店の壁にかかった額がちょっと傾いていると、ついつい水平に直してしまう——。

いちばん使っている道具が草刈機だなんて、認めたくない——。

こんな学芸員の“ウラ側”も見えてきた、コラムリレー第6シリーズ。各館園の学芸員が毎週交代で執筆、学芸職員部会 web で連載中です。今年度のテーマは「学芸員のひみつ道具」。博物館って何のためにあるの？ どんな仕事をしているの？ それを多くの人に知ってもらおうのが一番の狙い。お気に入りの道具や専門分野の特殊な道具など、1人1つずつ紹介してもらっています。

これまでのコラムリレーの多くは資料・標本や、地域の自然・文化など、“博物館のおモテの顔”がテーマだったのに対し、今回スポットを当てたは“ウラ側”。捕虫網や岩石ハンマーといったプロ向け道具から、100円ショップを活用した自作の道具、カッターや鉛筆のような日常の文房具まで、様々な道具が紹介されてきました。専門の道具からは博物館の舞台裏を支える特殊な仕事が見えてくるし、ありふれた日用品にも北海道の歴史や文化が潜んでいることに気づかされます。

ネット連載のコラムリレーですが、今年1月には道内情報雑誌「H0(ほ)」に「学芸員の秘密道具」として紹介されました(H0 vol.148)。この号は道内博物館の一大特集が組まれていた

ため、多くの方はご覧になったかと思います。2017年の書籍化やトークイベントに続く、ネットからリアル世界への進出です。

さらに今、コラムを書いてくれた学芸員の皆さんに「各館で自分のひみつ道具を展示しよう」と呼びかけているところです。展示室の隙間でもロビーのテーブルでもいいので、ぜひ、リアルひみつ道具を公開してください！ 博物館のきれいな展示の陰には学芸員の知恵と工夫と汗と涙があること、博物館のおモテを支えるウラ側があることを、見学者にちょっとだけでも気づいてもらえるのではないのでしょうか。

コラムリレー第6シリーズは3月末、39個目のひみつ道具を紹介して終了します。第7シリーズはただいま計画中。まだ書いたことのない方も、ぜひご参加ください。



当館展示室の隙間に展示したひみつ道具
「底層水チュルチュル」

(いしかり砂丘の風資料館 志賀健司)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

北海道青少年科学館連絡協議会

職員研修会の報告

令和元年11月に道科協加盟館のスタッフを対象とした職員研修会を旭川市科学館で開催しました。

本研修会は、参加者のスキルアップや加盟館相互の人的ネットワーク形成を目的にしており、

講演やグループワークなど毎年テーマを変えて持ち回りで実施しておりますが、今回は各館が日々実際に行なっている事業コンテンツを持ち寄って情報共有するという、科学館・博物館版「ネタ見せ発表会」を企画し、道内11館14名の参加者から9名の方がプレゼン方式で発表を行なっていただきました。

大きなイベントの関連事業や、自由参加のワークショップなど、ちょっとした機会に実施できる工作や実験レパートリーを増やし、事業活動の幅を広げる、というのが第1の目的だった

のですが、通常は工作・実験を指導する立場の職員が、受講者として参加することで「教えてもらう側」を体験できることが単純に面白く(とても重要)、また視点が変わることで新鮮な驚きや発見があり、意義深い機会であったと好評をいただくことができました。

発表者が普段から事業活動の中で実際に指導を担当されている方が多く、トークや説明の仕方など皆様とても達者だったこともありますが、工作ひとつとっても、材料の入手方法や使い方の工夫、発想などユニークなものばかりで、また「流氷・樹氷」や「水族館」など、地域的な特色やキーワードに触れる発表もあり、私個人も大変興味深く参加させていただきました。

今後も研修会や情報交換会を通じて、各館での事業活動を盛り上げ、来館者に質の高い学習

機会を提供できるよう努めていきたいと考えております。



研修会の様子

(旭川市科学館 大野 晋)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

アートギャラリー北海道

博物館・美術館の生命は、いうまでもなくコレクションです。昨今の美術館では、コレクションで構成された展覧会が多く見受けられます。これは企画展予算縮減の影響によるところが大きいと思われませんが、コレクションの意義をとらえ直して積極的に打ち出す姿勢が感じられる、いい展覧会も多くあります。

しかし、そうして美術館が奮闘する一方、ここ数年経営の厳しさや後継者不在で休館、閉館に追い込まれていく館が少なからずあったことは、私たち同業者にはこのうえなく残念であり、そのコレクションの行方を憂うことしかできないもどかしさに苛まれるところです。

その救済策のひとつになるかどうか、北海道教育委員会が2018年に開始した「アートギャラリー北海道」は、6つの道立美術館（近代美術館、三岸好太郎美術館、旭川美術館、帯広美術館、函館美術館、釧路芸術館）が中核となって、全道の公・私立の美術館・博物館のネットワークをつくり、協同で事業を行うことで、互いの館の来館者を増やそう、という主旨の事業です。

この連携には特に規約があるわけではなく、具体的には相互のコレクション交換展や協同の広報・イベントを行おうとする試みで、連携館は、2年で70館から80館になりました。



ART GALLERY HOKKAIDO

アートギャラリー北海道ロゴマーク

その名が示すとおり、基本的には美術系のコレクションを持つ館に参加いただいておりますが、すでにいくつかの道博協加盟館をふくむ博物館も連携しており、ジャンルを横断した展覧会も開催するなど、3年目を迎えようとしている今、少しずつこの事業も知られてきたところかと思えます。

しかし補助事業ではないので、結局作品輸送や、広報物などの資金繰りの壁は依然としてあります。それでも、コレクション交換にいたらずとも、館の種別や規模などの壁を取払って交流することに連携の意義はあります。道博協をはじめ、道美学芸研など種々の活動がこれまで進めてきた交流とも重なりつつ、コレクション紹介を軸とした展開を図っていきたく考えています。

そして当然のことながら、交流の原動力は、結局人であると痛感します。人が動いて声をかけ、話し、理解しあうことで、連携の骨格はつくられるものでしょう。

私たち学芸員はコレクションについて学び、伝えていくことを生業としていますが、連綿と

伝えてきた美術館・博物館のコレクションの意義を、願わくば、一般市民といわれる人々の、一人でも多くの人にわかっていただきたい。

コレクションというモノに意味をもたせ、活

かすのは人であり、その人とは、伝え、見る、すべての市民である、とあらためて思う次第です。

(北海道教育庁文化財・博物館課 久米淳之)

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2020年4月～2020年9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

期間	タイトル
1/25～4/12	特別展「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術—」
4/25～6/28	特別展「蜷川実花展—虚構と現実の間に—」
5/20, 6/3	「蜷川実花展」関連イベント「学芸員によるギャラリートัวร์」
7/18～8/25	特別展「PIXARのひみつ展 いのちを生みだすサイエンス」
9/12～11/3	特別展「ムーミン展 THE ART AND THE STORY」

豊平川さけ科学館 (011-582-7555)

期間	タイトル
5/3～5	サケ稚魚体験放流
9/22	さっぽろサケフェスタ 2020

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
4/11	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
4/18, 5/2, 5/17	アイヌ語講座「はじめの一步」(全3回)
4/25～5/24	企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」
4/26	特別イベント「アイヌ音楽ライブ トンコリ演奏会」
5/9	子どもワークショップ「身近な材料で音の出るおもちゃをつくろう！」
5/10	講演会「音の考古学～出土品から楽器の源流を探る」
5/16	特別イベント「北海道ジオパークまつり 2020」
5/24	講演会「音が出る道具のおはなし～音具と楽器の起原と役割を探る」
6/7, 6/28	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる」(全2回)
6/13	ちゃれんがワークショップ「のこぎりでネームプレートをつくろう」
6/20～9/27	特別展「恐竜展 2020」
6/27	自然観察会「落ち葉の下のカタツムリをさがそう」
6/27	講演会「北海道の化石リレー講座①三笠市の化石とその魅力」
7/4	講演会「北海道の化石リレー講座②中川町の化石とその魅力」
7/11	講演会「北海道の化石リレー講座③足寄町の化石とその魅力」
7/12	ちゃれんがワークショップ「展示×言葉でフォトカードをつくろう」
7/18	ミュージアムカレッジ「北海道の化石リレー講座④野幌丘陵の化石とその魅力」

7/19	ちゃれんがワークショップ「石器をつくる」
7/25	講演会「北海道の化石リレー講座⑤むかわ町の化石とその魅力」
7/26	子どもワークショップ「小さな野球盤づくり」
8/15	子どもワークショップ「草原の主・トノサマバッタをさがそう」
8/29	ちゃれんがワークショップ「大人のための『アイヌ楽器 まったく初めての体験』①」
8/30	ちゃれんがワークショップ「大人のための『アイヌ楽器 まったく初めての体験』②」
9/13	子どもワークショップ「始祖鳥カイトを飛ばそう」
9/26	自然観察会「木の実・草の実の大ぼうけんをたどろう」

北海道開拓の村 (011-898-2692)

期間	タイトル
4/25	たてもの観察会①「明治の商家の様式」
5/2～5/6	GW イベント「春・むら・ロマン」
5/16	学芸員とむらの建物探訪①「徳島県人の入植と藍」
6/21	たてもの観まもり隊
6/28	たてもの観察会②「郷里の建築様式」
7/18	学芸員とむらの建物探訪②「便所めぐり」
7/18, 19	第38回北海道開拓の村児童写生会
8/1～8/7	年中行事「七夕 七夕飾りづくり」
9/12～11/8	特別展「くらしをささえた型と版」
9/26, 27	年中行事「十五夜 お供え・お飾りづくり」
9/20～9/22	秋のふるさとまつり

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
4/1～4/17	展示会「ごみ減量ポスターコンクール受賞作品展示」
4/18～5/17	展示会「アースデイ in 円山動物園 子ども絵画コンクール」
5/16～5/17	イベント「第14回 アースデイ in 円山動物園」

北海道立近代美術館 (011-644-6882)

期間	タイトル
4/18～6/21	常設展「ひと・ヒト・人…あつまる人々、つらなる面々」ほか
4/25～6/21	特別展「『キスリング展』エコール・ド・パリの巨匠」
4/25	キスリング展関連「オープニング記念ギャラリートーク」
5/9, 6/13	常設展関連「子ども鑑賞ツアー」
5/16, 6/6	キスリング展関連「学芸員による見どころ解説」
5/31	キスリング展関連「特別記念講演会」
7/4～9/6	特別展「『古代エジプト展』ライデン国立古代博物館所蔵」
7/4～11/8	常設展「太陽の森 ディマシオ美術館展」ほか
9/19～11/8	特別展「没後50年『神田日勝 大地への筆触』」
日付未定	常設展関連「学芸員によるミュージアム・トーク」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/4～6/7	特別展「『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展」
4/18, 5/2, 5/16,	絵本の読み聞かせ「えほんよみきかせ」

5/30	
4/19, 4/26	ワークショップ「めがねうさぎのポップアップカードをつくろう」
4/11～6/12	常設展アーカイブ「豆本ワールド」
5/5, 6/7, 7/5, 8/2, 8/5～6, 8/9, 9/6	行事「わくわくこどもランド」
5/14, 6/11, 7/9, 8/13, 9/10	月例朗読会「北の響 名作を声にのせて」
5/31	映画鑑賞「泥だらけの純情」
6/23～8/10	常設展アーカイブ「アイヌ文化に触れる」
6/27～8/16	特別展「太宰治—創作の舞台裏」
8/20～10/25	常設展アーカイブ「大本靖 四季の風景」
8/29～10/18	特別展「作家たちの交差点—『北の話』が残した時間」

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/7～7/31	企画展「生誕120年記念 上田桑鳩と北海道の門流展」
月1回	ギャラリートーク (期日・講師等未定)

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/19	野外講座「いしかり砂丘の風資料館/春の海辺の漂着物」
7～8月	テーマ展「石狩のウミガメ」
8/1	体験講座「海辺の標本箱をつくる」

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
5/2～6/21	企画展「(仮)知新の駅春のミニ企画展！」
7/23～9/22	企画展「(仮)北広島自然展 野幌原始林の自然」

サケのふるさと千歳水族館 (0123-42-3001)

期間	タイトル
3/1～5/31	行事「サケ稚魚の放流体験」

空知

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

期間	タイトル
2/1～5/10	企画展「北海道のアンモナイト～チューロニアン編～」
5/2～5/6	行事「化石博士になろう！2020 GW」
7/18～10/18	特別展 (タイトル未定)

後志

一般財団法人荒井記念美術館 (0135-63-1111)

期間	タイトル
4/23～7/5	ピカソ版画常設展 I 期「繰り返すテーマ」
4/23～8/16	西村計雄常設展 I 期「日本の心、フランスのエスプリ」

4/23～11/15	生まれ出づる悩み展（常設展）
7/8～9/6	ピカソ版画常設展Ⅱ期「ピカソの歩み」
8/19～11/15	西村計雄常設展Ⅱ期「西村計雄の山と風」

渡島

北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

期間	タイトル
4/25～6/14	特別展「愛するひと やなせたかしの世界」
4/25, 5/9	やなせたかしの世界展関連事業「ギャラリー・ツアー」
4/29, 5/3～6	やなせたかしの世界展関連事業「ファミリー・ツアー」
5/2, 6/13	やなせたかしの世界展関連事業「美術映画会」
5/10, 5/17	やなせたかしの世界展関連事業「絵本のよみきかせ」
5/16, 31, 6/14	やなせたかしの世界展関連事業「合唱コンサート」
5/23	やなせたかしの世界展関連事業「ハコビ×遺愛学院 2館ツアー」
5/30	やなせたかしの世界展関連事業「パン&トーク」
7/4～8/30	特別展「《道産子追憶之巻》と日本画の名品 道立近代美術館コレクション選 道産子日本画家のニューフェイス 葛西由香の世界」
4/25～8/30	ミュージアム・コレクション「ハコビ・コレクションのニューカマー/鷗亭と啄木」

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
4/18	体験「春の自然観察会」
5/16	体験「春の縄文染め」
6/6, 6/20	体験「鹿角釣り針づくりと海釣り体験」
7/11	体験「原体づくり体験」
8/8	体験「竪穴住居のジオラマをつくろう」
9/5, 10/10	体験「縄文土器づくり」

胆振

国立アイヌ民族博物館(問合せ窓口番号未定 担当者番号 0144-84-6962)

期間	タイトル
4/24～6/21	開館記念特別展「私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ」

室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)

期間	タイトル
4/19	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『しいたけ植菌』体験学習会」
5/5	体験学習会「民俗資料館フェスティバル」

仙台藩白老元陣屋資料館(0144-85-2666)

期間	タイトル
4/18～5/10	特別展「第10回刀剣展 北海道現代刀工4人展」
4月中旬～5月中旬	企画展「武者人形展」
5/5	こどもの日企画
7/23～8/18	特別展「手島圭三郎版画展」
8/10	陣屋の日

9月中旬～10月中旬	特別展「第2回白老の木彫熊とその考察展（仮題）」
------------	--------------------------

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター(0146-36-3601)

期間	タイトル
4/1～6/30 予定	特別展「幻の花-ヒダカソウ-」
4/25	講座「カンカン講座『コハクみがき』」（仮）
5/2～5/4	ゴールデンウィークイベント「シカ角アクセサリー作り、アポイ岳の3D地形模型作り、岩石カッター・石磨き体験、特別展及び展示物の案内」
7/23～10/31	特別展「地域を支える鉱工業」（仮）

沙流川歴史館(01457-2-4085)

期間	タイトル
4/21～5/17	企画展「知ってみよう！やってみよう！はじめての考古学」

上川

北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

期間	タイトル
4/7～4/12	特別展「第75回展記念新ロマン派会員・会友展」
4/7～6/28	常設展「Amazing Woodcraft 椅子と箱の世界」
4/25～6/28	特別展「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」
4/25, 26, 6/21	読み聞かせ「図書館×美術館『絵本のよみきかせ会』」
5/6	解説「30分でわかる！見どころ解説」
5/9, 10	写真撮影会「ミッフィーと一緒に。『写真撮影会』」
5/24	ワークショップ「こども工作ワークショップ『ちびっこデザイナーのこだわり絵本バッグ』～色の世界～」
7/11～8/30	特別展「令和2年度国立美術館巡回展 京都国立美術館所蔵展 京の美術一洋画、日本画、工芸」
7/11～8/30	常設展「旭川ゆかりのアーティスト」

旭川市科学館(0166-31-3186)

期間	タイトル
5/2～5/6	GWサイエンススタジオ「科学あそび大集合」
7/18～9/22	特別展「恐竜ワールド2020」

旭川市博物館(0166-69-2004)

期間	タイトル
4/25～5/31	第89回企画展「北海道立北方民族博物館所蔵 イヌイト版画展」
8/1～9/27	第90回企画展「旭川のあゆみ～開村130年記念展」（仮）
9月上旬	イベント「アイヌ文化ふれあいまつり」

富良野市博物館(0167-42-2407)

期間	タイトル
4/25～5/24	特別展「北の風土と水彩人 白江正夫展」 ※富良野市文化会館にて開催
4/25	講演会「『北の風土と水彩人 白江正夫展』記念講演会」
7/4～8/30	特別展「写真展『ふらの盆地』の動物たち～身体のおくみにせまる～」

網走

北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

期間	タイトル
4/18～5/10	ロビー展「北海道士産と木彫り熊」
5/2	講座「北海道士産と木彫り熊展解説講座」
5/3～5/5	イベント「ゴールデンウィークイベント」
5/23～6/21	ロビー展「北方のキーストーン サケ」
5/23	はくぶつかんクラブ「北方民族の太鼓をつくろう」
5/24	講座「北方のキーストーン サケ展解説講座」
5/30	はくぶつかんクラブ「電子楽器フォトミンをつくろう」
6/6	講座「イスラーム文化とイラン」
6/27	はくぶつかんクラブ「北の動物で簡単ホワイトボードづくり」
6月(日程未定)	講座「サケとアイヌ民族」
7/11	講習会「白樺樹皮細工」
7/18～8/23	特別展「北で生きるよすが 北方民族の世界観」
7/19	講座「サハのシャマン」
7/23	海の日イベント「バイダルカ試乗体験」
7/25	はくぶつかんクラブ「動物刺繍のマイバッグ」
7/26	講座「北方民族の民話・神話にみられる世界観」
8/1	講座「特別展示展示解説講座」
8/2	講座「モンゴルのシャマン」
8/15	映像上映会「北方民族博物館シアター 夏」
8/22	はくぶつかんクラブ「北欧風パンケーキとジャム&バターづくり」
9/12	はくぶつかんクラブ「シラカバの皮でつくるペンスタンド」
9/26	講習会「チルカット織り」

北海道立オホーツク流水科学センター(0158-23-5400)

期間	タイトル
～4/19	写真展「オホーツクの自然と魅力」
5/2～5/6	行事「GW イベント」
5/3～5/5	行事「科学教室」
5/16～5/31	展覧会「湧別カメラクラブ写真展～オホーツクの四季～」
6月上旬～7月上旬	展覧会「全国流水絵手紙交流展」
7/18	行事「第10回紋別わくわく科学教室」
8月中旬	行事「夏のギザまつり」
8月中旬	行事「科学教室」
8月上旬～9月下旬	令和2年度企画展「流水の海から500万の星空体験を」(仮)
9月上旬	企画展関連事業「MEGASTAR-Neo鑑賞」

博物館 網走監獄(0152-45-2411)

期間	タイトル
4/29～7/30	企画展「教誨師の活動」
5/3～5/5	GW特別イベント「餅つき体験」「軟石ストラップ作り」「豆わらじ作り」「昔の遊び道具作り」
5/17	ワークショップ「農園体験第1回」
6/7	ワークショップ「農園体験第2回」

6/21	体験講座「梅の枝で草木染めをしよう」
6/28	ワークショップ「農園体験第3回」
7/5	講演会「博物館開館記念講演会～網走刑務所の現状～」
7/19	ワークショップ「農園体験第4回」
7/26	体験講座「炭火アイロンでアイロンビーズを作ろう」
8/1～12/31	企画展「網走刑務所開設 130 年記念企画展～刑務所の今～」
8/2	体験講座「経木で扇子を作ろう」
8/7	年中行事「七夕」
8/9	ワークショップ「農園体験第5回」
9/6	ワークショップ「農園体験第6回」
9/20～9/21	特別イベント「博物館網走監獄収穫祭」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/25	特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」
4/17, 18	プチ工房「和紙で作る兜折紙」
4/18～5/13	ロビー展「お宝見せます」
4/25	イベント「国際博物館の日記念行事」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/15, 16	プチ工房「ガラスの絵の具アート」
5/23	体験会「写真のような絵を描こう」
5/30	体験会「SLに乗って」
6/5, 6	プチ工房「ザリガニばさみ」
6/27	体験会「親子写真教室」
6/28	講演会「特別展ギャラリートーク」
7/1～10/31	ロビー展「海がないのにナゼ？美幌の海鳥とオホーツクのアホウドリ」
7/1～8/30	用具貸出「夏だ！昆虫グッズ無料レンタル」
7/24, 25	プチ工房「プラ板のアクセサリー」
8/7, 8	プチ工房「サマーフォトフレーム」
8/22	講演会「美幌の海鳥とオホーツクのアホウドリ」
9/1～9/30	イベント「お宝をさがせ」
9/12	講演会「バッタのことを知ろう」
9/12, 13	プチ工房「やってみよう草木染め」
9/13	イベント「みどりの村ふれあい祭り記念行事」
9/26	体験会「シルクスクリーンのワークショップ」

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
6月～8月	講座「美術館実技講座 水彩画入門」
7/11～8/23	美術企画展「『自然を見つめる』（仮題）展」

ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
8/29	講座「遺跡発掘調査見学会」（予定）

十勝

帯広百年記念館(0155-24-5352)

期間	タイトル
4/12～5/6	ロビー展「五月人形展」
4/18	博物館講座「史料から見る依田勉三・晩成社5」
4/25～5/10	企画展「辻川和夫写真展～光響曲 十勝野～」
5/5	博物館講座「一日だけのとてっぽ号公開」
5/16	博物館講座 「こうして街にロマンがうまれた～小樽に見る文化遺産との向き合い方～」
5/16	自然観察会「ウツベツ川の生きものもっと録る！」
5～11月	連続講座「地質講座『十勝のジオツアー』」
6/20	博物館講座「吉田康登牧師の足跡～なぜ池田の町に教会が建てられたのか?～」
7/4～7/29	ロビー展「荘田喜與志コレクション15 昭和からの伝言」
7/18	博物館講座「十勝の遺跡語り～浦幌町新吉野台細石器遺跡の巻～」
7月中旬	郷土学習見学会「幕別・池田の歴史を訪ねる」
7/25, 8/9	体験教室「つくってみよう縄文土器」
8/8～9/13	特別企画展「カモ・1万キロの旅」
8/8	博物館講座「鳥の旅路を探せ!～全道ガン類フライウェイ調査～」
8月下旬	郷土学習見学会「十勝平野の生い立ちを探る」
9/5	博物館講座「マガモ1万キロの旅～カモ類標識調査～」
9/20～10/11	収蔵作品展「現代書展 書は何を見つめてきたか」
9/27, 10/11, 10/25, 11/8	連続講座「十勝の古文書を読む」

神田日勝記念美術館(0156-66-1555)

期間	タイトル
4/29～5/24	「天陽展(仮)」
5/27～7/5	「『水と魚、魅惑の世界展』知来要+村上康成」
7/11～9/6	「神田日勝没後50年・鹿追町開町100年記念 神田日勝 大地への筆触」
9/11～11/15	「神田日勝没後50年 躍動する十勝の美術作家展」
年3回	ワークショップ
年4回	アート・キッズ・クラブ

忠類ナウマン象記念館(01558-8-2826)

期間	タイトル
未定	未定

広尾町海洋博物館(01558-2-5572)

期間	タイトル
7月～8月	クイズラリー「はくぶつかんクイズラリー」

釧路

釧路市立博物館(0154-41-5809)

期間	タイトル
3/14～5/17	企画展「釧路のイトウと淡水魚」
4/18, 19	展示解説「ようこそ釧路へ」

4/19, 5/17, 6/21, 7/19, 8/16, 9/20	観察会「春採湖畔探鳥会」
5/16, 6/20, 7/18, 8/15, 9/19	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/23～7/5	企画展「あなたの知らない外来植物の世界 in 釧路」
6/6	釧路生物談話会講演会「植物の遺伝的多様性とはなにか？」（我妻尚広氏（酪農学園大学教授））
6/13, 7/11, 8/8, 9/12	観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
7/11～9/27	企画展「道東の鉄道～釧路機関区 酒井豊隆機関士の記録～」（仮）

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/11	アートシネマ館「LION（ライオン）25年目のただいま」
4/25～7/1	「北海道・鉄道開業140年：荒川好夫写真展と栗谷川健一ポスター展」
5/14～6/7	新収蔵展示『時の啓示』池田良二版画展」
5/30	アートシネマ館「手紙」
6/27	アートシネマ館「92歳のパリジェンヌ」
6月予定	大人の家庭科&お手軽アート教室 ※テーマ別の3講座
7/18～10/11	「記憶を結び、共生の未来をイメージする。没後20年 毛綱毅曠の建築脳」（共催）
7/23～8/18	夏のキッズアトリエ
7/25	アートシネマ館「Little DJ 小さな恋の物語」
8/29～9/27	「大漁旗展 つたえる、いろどる」
8/29	アートシネマ館「フランシスコの2人の息子」
9/12	パフォーミングシアター2020「ポケットサーカス」
9/26	アートシネマ館「ニーゼと光のアトリエ」

釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
4/29～5/6	企画展「ゴールデンウィークイベント『木のおもちゃであそぼう！』」
5/9	天体観測会「星空キャラバン 金星と春の星座を見つけよう」
6/21	天体観測会「星空キャラバン 部分日食を見てみよう！」
7/23～8/18	企画展「夏休みイベント」
7/25, 26	ワークショップ「七夕スペシャル」
9/19～9/22	企画展「遊びんピック」

弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 (015-482-2948)

期間	タイトル
4/10～11/30	体験「アイヌ民族衣装試着体験」
4/10～11/30	体験「アイヌ文様刺繍体験（本のしおり・コースター）」
4/10～11/30	体験「アイヌ文様切り絵体験」

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 （普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

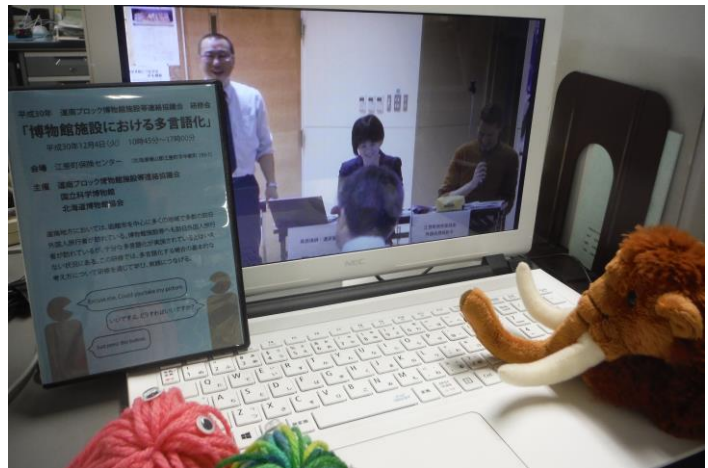
【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■研修会のDVDを貸し出します！

2018年度に国立科学博物館と連携して道内各地で開催した「レガシー事業」の研修のうち、江差町で開催した「博物館施設における多言語化」の様子を記録したDVDを希望者に貸し出しています。

いろいろな国・地域からの旅行者にどう対応するか。経験豊富な専門家のお話に加え、例に挙げた写真にどう説明を付けるか参加者どうしの討論とそれに対する助言は、各施設にも役に立つ内容がいっぱい。

借用を希望される方は、事務局にご連絡ください。



■2020年度の北海道博物館大会について

第59回北海道博物館大会は、2020年6月30日（火）と7月1日（水）に士別市で開催予定です。スポーツ合宿が盛んな同市内のホテルのなかには、夏季の予約をインターネットでは受け付けていないところもあるようです。インターネット予約がうまくいかない場合、直接ホテルにお電話で問い合わせることをおすすめします。オリンピック・パラリンピックの余波で例年よりも混むかもしれません。ご予約はお早めに。

■臨時職員として事務局の仕事を担っていた神田いずみさんが、3月限りで事務局を離れます。お世話になりました。4月からは、釧路での生活を楽しまれますように。（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第126号

発行日 2020年3月18日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com